博覧会協会における会場建設費の精査結果について

参考資料 協会説明資料

- 会場建設費は、最大2350億円必要。
- 建設価格高騰の影響として527億円の増加。節減努力や施工環境改善等、状況を踏まえた調整により 157億円を合理化。また、予備費を130億円措置することとし、合わせて500億円増。

1850億円決定時点 (2020年12月時点)

【工事】1850億円

- ·大工区
- 主要施設
- •土木工区
- ·設備発注
- •交通施設
- ・調査設計
- ・警備関係 など

① 物価上昇+527億円

- ·資材価格 +443億円
- 労務単価 +84億円

② 工事内容の見直しによる変更ほか ▲157億円

- ・調達方法の見直し(協賛獲得)
- ・会場デザインの変更等
- ・施工方法の調整、仕様見直し
- ・電力関係設備等の見直し等

③ 予備費+130億円

• 工事費2220億円の約6%で、130億円

<u>精査結果</u>

【予備費】130億円

【工事】2220億円

- •大工区
- ・主要施設
- •土木工区
- ·設備発注
- •交通施設
- •調查設計
- •警備関係
- ・施工環境改善など

最大2350億円

<参考>日本建設業連合会:建築資材高騰・労務費の上昇等の現状 <2021/1~2023/3>

資材費上昇の現状 2021年1月~2023年3月の建設資材物価指数(東京)の推移(2011年平均=100) 建設全体(平均) 資材価格 28% UD 土木部門(平均) 建築部門(平均) 140.0 137.9 140.0 資材価格 **29%UD** 資材価格 **25%up** 135.0 130.0 130.0 125.0 125.0 120.0 120.0 115,0 115.0 110.010 110.0 105.0 105.0 2023 2021 2022 2023

● 労務費上昇の現状



資料(3月10日付け)より作成

物価調査会総合研究所